

第2期草津市中心市街地活性化基本計画（案）

前回の本部会議（第54回 平成30年3月1日開催）からの主な変更点

7月末の内閣府幹部ヒアリングにおいて「計画認定に必要な衰退要件が不十分である。3つのエリアごとに現状分析と課題抽出を丁寧にやり直すべき」との指摘があったため、分析から目標設定まで見直しを行った。

【前回の本部会議報告時】

● 中心市街地活性化の課題

□ 地域経済の活性化

- ・ 地域資産や資源を活用した経済活力の向上
- ・ 良好な景観形成による魅力的な市街地の形成

□ 交流環境の形成

- ・ 都市機能の集積や増進等による都市環境の充実
- ・ 様々な人が集い、ふれあう魅力的な環境の形成
- ・ 様々な人、モノ、情報が交流する機会と拠点の充実

□ 回遊性の向上とにぎわいの波及

- ・ 拠点間での連携等による回遊性の向上
- ・ 市全域など広範囲へのにぎわいの波及

● 基本方針等

	①	②	③
基本方針	活気とにぎわいあふれるまち	ひとが集いふれあうまち	歩いて健幸で楽しく回遊できるまち
目標	活気とにぎわいの創出	まちなか交流の促進	回遊性の向上
数値目標	空き店舗率	施設利用者数	歩行者通行量

【今回】

● 中心市街地及び各エリアの概要・現状分析

【全体】 マンション立地が盛んな反面、商業指標は衰退傾向、歩行者通行量も一部では減少している。昼間の集客の核を担ってきた公共施設の老朽化等に伴い利用者数が伸び悩んでいる。

【駅東エリア】 高密度の住宅立地が実現したにも関わらず各種商業指標は低迷。商店街は夜型飲食店への転換が進み、地元スーパーが休業。官民施設跡地の利活用を進める必要がある。

【駅西エリア】 大型商業施設が立地しているが、施設外への波及効果が非常に少ない。商店街は青空駐車場が多く店舗の連続性が失われている。現在、健全関連施設の整備が進んでいる。

【本陣エリア】 旧宿場町の町並みを残す地域だが、人口は減少し高齢化率も高い。土地売却とマンション建設が進行し、歴史的町並みが崩れつつある。その結果、観光客や市民の休日のお出かけニーズを取り込めず、駅から遠い地域の歩行者通行量は伸び悩んでいる。

● 基本方針等

※エリアごとの課題を解決するための目標とエリア全体に波及させる数値目標を設定

	①	②	③
基本方針	【主に駅東エリア】 拠点施設の集客を軸にひとが集いふれあうまち	【主に駅西エリア】 健幸づくりを軸に活気とにぎわいのあるまち	【主に本陣エリア】 歴史的町並み・町家の利活用を軸に歩いて楽しく回遊できるまち
目標	魅力ある店舗と拠点整備によるまちなか交流の促進	健幸拠点を核とした活気とにぎわいの創出	歴史と景観を活かした回遊性の向上とまち歩き観光の促進
数値目標	歩行者通行量 ＋ 営業店舗数	健幸関連の施設利用者数・イベント参加者数	観光施設利用者数・イベント参加者数